

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	事業対象地域における妊産婦・新生児死亡率が減少する
(2) 事業内容	<p>2013年12月31日までに、以下の活動を実施した。</p> <p>活動1. 妊婦の家の建設及び運営支援 現地保健当局とともに、当該事業がガブリエラ・アルバラド病院（ダンリ病院）に併設中の「妊婦の家」は、9月6日に行われた3社による入札を経て施工業者が決定し、10月4日に契約、10月15日に着工した。同施設は、ダンリ病院から約100mの土地に建設され、延べ床面積約216㎡、鉄骨構造の平屋建てである。4部屋の宿泊スペースに加え、台所、食堂、居間、洗面所、洗濯場を備え、最大30名が宿泊できる。12月19日時点で8割程度進捗しており、2月に建設を終了し、3月上旬に開所式を予定している。</p> <p>運営面に関しては、9月3日に「妊婦の家」運営委員会形成の会合を開き、参加者の中から7名の役員を選出した。9月10日に同運営委員会を対象に研修を行い、その後委員会主催の会合の中で、実地研修の形で補完研修が行われている。研修内容は、本事業および当団体の説明、エル・パライス県の母子保健の現状、「妊婦の家」運営規約作成、「妊婦の家」会計管理について事業担当スタッフが実施した。そして同委員会は、自主的に隔週火曜日に1時間程度会合を開いており、「妊婦の家」建設に必要なネットワーク作りや募金活動などを行っている。事業スタッフも同委員会に対し継続的に支援を行っており、現在も施設の運営に欠かせない規約作りに取り組んでいる。</p> <p>活動2. ダンリ病院産科スタッフに対する研修 現在、研修内容の策定及び教材の作成中であり、研修は3月に実施する予定である。</p> <p>活動3. ダンリ市内のCMI・保健所スタッフに対する研修 合計3回（10月9～10日、10月17～18日、10月24～25日）の日程でダンリ市全体の保健医療従事者59名を約20名ずつ3回に分けて、保健省規定のプログラムに沿って、妊娠可能年齢女性への指導、妊娠中、産後ケア、新生児ケアについて研修を実施した。事前事後のテストでは参加者全員が知識の向上を示し、また96%がテストの合格点にあたる70点以上を取得した。</p> <p>活動4. ダンリ市内保健ボランティアに対する周産期教育等実施 合計2回（11月12～15日、19～22日）の日程で、ダンリ市内の16か所の保健所において、保健ボランティアに対して、ホンジュラスにおける母子保健の現状、妊産婦と新生児の死亡原因、妊娠中・出産時・出産後の危険兆候について研修を行った。招集した151村のうち147村から計284人が出席し多くの学びを得た。研修前後に危険兆候を問うテストを行ったところ、95%の出席者が理解を深めたことを確認した。</p> <p>また12月3～6日、10～13日、17日の日程で、ダンリ市内の9か所の保健所において、保健ボランティアを対象に緊急プラン作成研修を実施した。対象39村より126人の出席者を得た。本研修を通じてホンジュラス、特にエル・パライス県における妊産婦死亡の状況、妊娠・出産中・産後の危険兆候、ファーストエイド、緊急時の対応の遅れにつながる要因について学んだ。その後、委員会の話し合いにより各村の問題を抽出し、緊急事態が発生した際の搬送先の確認、交通手段の確保などの緊急搬送プランが作成された。</p>

	<p><u>活動5：ダンリ病院とダンリ市内の他の病院施設とのネットワークの強化</u> 11月6日にダンリ病院関係者、県保健事務所所長及び担当看護師、「妊婦の家」運営委員ら9名が出席し、第1回目の会合が実施された。「妊婦の家」の意義、目指す指標について再確認するとともに、建設の進捗状況に係る説明を行った。「妊婦の家」運営委員会は、同月末までに運営規約第一稿を作成することを表明し、保健事務所長からは、2月の第2回目の会合までに、少なくとも2回のネットワーク会合を開くことが約束されるなど、主要な関係者が「妊婦の家」の重要性を認識し、ネットワーク会合の意義について理解を深めた。</p>
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>本事業は「事業対象地域における施設分娩が促進される」ことを目的としており、その成果を測る指標として以下を用いる。 <u>事業目標：事業対象地域における施設分娩が促進される。</u> 指標： ・ ダンリ病院の普通分娩妊婦の病院関連施設滞在日数が平均1日から5日間となる ・ ダンリ病院の普通分娩数が現在より10%増加する ・ ダンリ市におけるダンリ病院を含む施設分娩率が10%増加する 現在「妊婦の家」は建設中であり、指標の検証は事業後半に行う。一方で、保健所スタッフ研修において、施設分娩の促進には妊娠前からの啓発やケアが必要であることが強調され、各保健所では「出産計画の相談を受け付けています」という案内が貼り出され、以前より積極的に相談に応じるようになった。また養成されたボランティアが、自宅分娩を予定していた妊婦の存在を保健所の看護師に連絡したことにより、(今回は自宅分娩となったものの)分娩後即座に新生児予防接種、産後健診を保健所で受けることができ、母子死亡につながるリスクを防ぐことができたなどの効果が報告されている。</p>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>事業は計画通り進捗しており、今後も引き続き、以下の活動をタイムテーブルに沿って実施していく。</p> <p><u>活動1：妊婦の家の建設及び運営支援</u> 「妊婦の家」の建設はほぼ予定通り進捗しており、2月上旬頃に完成し、3月上旬に開所式を開催する予定である。また、「妊婦の家」運営委員会に対しても定期的なモニタリングを行う予定である。</p> <p><u>活動2：ダンリ病院産科スタッフに対する研修</u> ホ国保健省が策定したプログラムに沿って、分娩や産前・産後のケアに関する5日間の技術研修を3月に実施する予定である。</p> <p><u>活動3：ダンリ市内のCMI/保健所スタッフに対する研修</u> 予定された研修は全て終了した。今後も必要に応じてフォローアップする。</p> <p><u>活動4：ダンリ市内の保健ボランティアに対する研修</u> 保健ボランティアに対する周産期教育研修の第2回目、新生児の正しい扱い方、危険兆候に関する研修を1月に実施する予定である。また、各村を訪問して緊急搬送委員会へのフォローアップを行う予定である。</p> <p><u>活動5：ダンリ病院とダンリ市内の他の病院施設とのネットワーク強化</u> 2月に第2回会合、6月に第3回会合を実施し、「妊婦の家」の有効活用についての協議を行う中で、ダンリ病院、県保健事務所ならびに他の保健医療施設とのネットワークの強化を図る。</p>